

非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究

研究分担者

茂呂 寛 新潟大学医歯学総合病院 感染管理部 准教授

研究要旨

新潟県内及び北関東甲信越ブロックにおける長期療養への対応を念頭に、医療体制の見直しと、関連職員を対象とした教育・啓発の実践を図った。コロナ禍を受けてリモート会議が浸透し、県境を超えた円滑な情報共有が可能となった。新潟県内においては、既存の県内ネットワークである新潟医療関連感染制御コンソーシアムの事業に、「HIV 診療体制の構築」を追加し、さらにブロックにおいては北関東甲信越 HIV 感染者包括支援連携の枠組みを設けることができた。今後はより円滑な情報共有が期待される。

A. 研究目的

広い地域に患者が分散している新潟県及び北関東・甲信越地域において、地域特性を踏まえたうえでの長期療養体制の構築の実証研究を行う。

B. 研究方法

新潟県内の医療機関を対象に、HIV 感染症の基礎知識定着を図るため、研修会を開催し、HIV 感染症の受け入れや知識の定着についてアンケートを実施する。また、新潟県内での取り組みを北関東・甲信越地域に拡張する。

(倫理面への配慮)

アンケート調査の実施、臨床研究、講演会や検討会での症例提示にあたり、匿名化を徹底するなど、個人情報の保護に十分な配慮を行った。

C. 研究結果

研究期間を通じ、新潟県内においては、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、WEB での開催形式をとり、研修会による知識の底上げを図った。

令和 4 年度には新潟県医療関連感染制御コンソーシアム (CHAIN) の年次総会で HIV 診療体制の構築を事業に追加することが承認され、県内における円滑な情報共有が可能となった。

令和 5 年度は北関東甲信越地域における薬害被害者の情報共有および支援体制構築を目的に、北関東

甲信越 HIV 感染者 包括支援連携 (NK2-CHAIN) の枠組み設立が承認された。

D. 考察

当院はブロック拠点病院の立場として、これまで新潟県という一地方でこうした課題にどう対応していきか取り組んできた。既存の枠組みである「新潟県医療関連感染制御コンソーシアム (CHAIN)」の HIV 領域への展開も、その成果の一つに挙げられる。今年度はこれまでの経験を基盤として、北関東・甲信越地域における枠組みとして、「北関東甲信越 HIV 感染者 包括支援連携」、略称 NK2-CHAIN (North Kanto-Koshinetsu Region Collaboration for HIV Assistance and Integrated Network) を、北関東・甲信越の中核拠点病院協議会での承認を経て設立した。NK2-CHAIN の事業により、ブロック拠点病院である当院が情報を収集、整理し、情報共有を図ることで、各地域における円滑な診療に結びつくことを目標に取り組んでいく。

E. 結論

研究期間中に新型コロナウイルス感染症の影響が軽減し、アフターコロナの機運の中で、県外へのより積極的な関与が可能となってきている。当院としても徐々に県内からブロック内と活動の範囲を拡張してきたが、今後もその時々課題に応じ、柔軟な対応を継続していく。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Dynamics of iron metabolism in patients with bloodstream infections: a time-course clinical study

Hiroshi Moro, Yuuki Bamba, Kei Nagano, Mariko Hakamata, Hideyuki Ogata, Satoshi, Shibata, Hiromi Cho, Nobumasa Aoki, Mizuho Sato, Yasuyoshi Ohshima, Satoshi Watanabe, Toshiyuki Koya, Toshinori Takada, Toshiaki Kikuchi

Scientific Reports 13(1) 2023

2. 学会発表

1. 院内肺炎における empiric therapy の最適化について 茂呂寛, 第97回日本感染症学会総会 2023年4月28日

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし